平成 28 年 12 月 26 日

多摩市長殿
多摩市議会議長
パルテノン多摩改修特別委員会委員長、各位殿

多摩サロン　理事長　西田昌弘
多摩みらい研究会　代表　藤井国男
ウォッチング多摩の会　代表　神津幸夫

# パルテノン多摩大規模改修計画についての意見

私たちは、市議会傍聴を中心に市政ウォッチング市民活動を行っています。市が現在取り組んでいる「公共施設の見直し方針と行動プログラム」の様々なイベントに参加してきたのもその一環です。その中で私たちが特に関心を抱き、同時に大いに疑問を持ったのは巨額の費用を掛けてパルテノン多摩を改修しようという市の計画についてです。

この計画は市議会で、その初期費用が予算化されたことで急浮上してきたと私たちは理解しています。私たちの納めた、あるいは納めるべき税金が事前に何の前触れも相談もなくそんな風に勝手に使われてしまっていいのか。それが私たちの最初の基本的な疑問でした。

## 市が決めてしまうのか、パルテノンの将来像

私たちは「ニュース」でこの問題を特集し、市民に呼び掛けて討論集会を開いてきました。11 月には 2000 人の市民に対してアンケートを行い市民の声を聞いてみました。インターネットを通じてのアンケートは今継続中です。結果は添付した資料の通りです(市の 80 億円改修案の支持者は 6%に過ぎません)。

私たちはさらに、９月市議会に「パルテノン多摩の改修工事の着工時期に関する」陳情と「多摩市公共施設及びインフラ施設の建設･改修工事の改善･向上に資する『期中監査制度=事前監査』導入を求める」政策提案を出しました。陳情は趣旨採択、政策提案は不採択になっています。

私たちはこの政策提案の不採択には大局的観点から疑問を持っています。行政･議会とも常日頃、多摩市の豊富な人材活用を唱えながら制度的に実質化されておらず改革も行われていないからです。これは、行政の安易なご都合主義による拙速さ、議会としては常に追認の域を出ない今のあり方に起因していると考えるからです。

この巨額改修問題については、市民の間に関心が広がりあちこちで疑問の声々が上がっているにもかかわらず、市は都市計画税を当て込んでの大改修という既定の方針を変えようとせず、７月から基本計画策定委員会を既に８回積み重ね、現状施設の継続を前提にした行政先行の計画を着々と進めています。しかもそれは他に選択肢がまったくなく、このまま進行すれば、市の考えたたった１つの案によってパルテノン多摩の将来像が決められてしまいます。市がその案だけで多様な価値で生きる市民を説得し納得させようというのは、行政のゴリ押しだと批判されても仕方がないと私たちは感じています。

立ち止まって考えよう

この際、ちょっと立ち止まって考えてみようではありませんか。ニュータウンは今や第２世代の時代を迎えようとしています。ニュータウン再生の論議も盛んです。時代は変わろうとしています。このような時にまず「場所、館、金」ありき、といったきわめて近視眼的な、ハード先行、行政主導型の計画のゴリ押しはいったん中止してみてはいかがですか。そして、これからのパルテノン多摩に市民が何を求めどのような場にしていきたいのか、市民とじっくり話し合うべきではありませんか。

基本計画作成依頼先の事例紹介にこんな例がありました。長野県茅野市の場合です。茅野市は市民会館新設に際して市民との話し合いに２年、計画作成に２年、プラスαの年月を費やしています。それが今では隣接公園の運営などが高校生主体で行われているという素晴らしい展開をしているというのです。市民会館新設に当たって辛抱強くこれだけの年月をかけた結果で、それがこの会館を文字通り「市民による市民の施設」にしていると思います。これこそまさに市民参画のあり方ではありませんか。

市が共催して先頃「公共施設のあり方」をテーマに開かれたシンポジウムでは「これからの公共施設は市民のためにではなく、市民と共に一緒に」との熱いメッセージが語られました。この会に出席していた阿部市長は、その後の市民説明会などでこの主張をオーム返し力説しています。

阿部市長、その通りです。だったらこの問題も「市民と共に一緒に」考えましょう。パルテノン多摩は新設ではなく現存の施設です。コンサル依頼先の実績事例からも学ぶべきものがあり、市民との共有感を得ようとしたこれまでの努力を無にせず、老朽化の危険防止を急ぐ数年間の閉館の損失対応という目先の問題にこだわって百年の計を誤ることはありません。今こそいったん立ち止まって再考してみることが必要だと私たちは考えます。

構想力が問われている

今回のアンケート結果には市民が様々な選択を望んでおり、多様な意思が表れています。特に「案 D の運営の完全民営化コース」の回答が最も多く 45%を占めていたことの重さを市及び市議諸兄姉は再認識すべきだと私たちは考えます。民間資金を活用する PFI の手法はこの計画には沿うものではないというのが市の判断のようですが、これからの公共施設の在り方として運営を民間に任せるコンセッション方式を望む市民の意見は無視できないはずです。

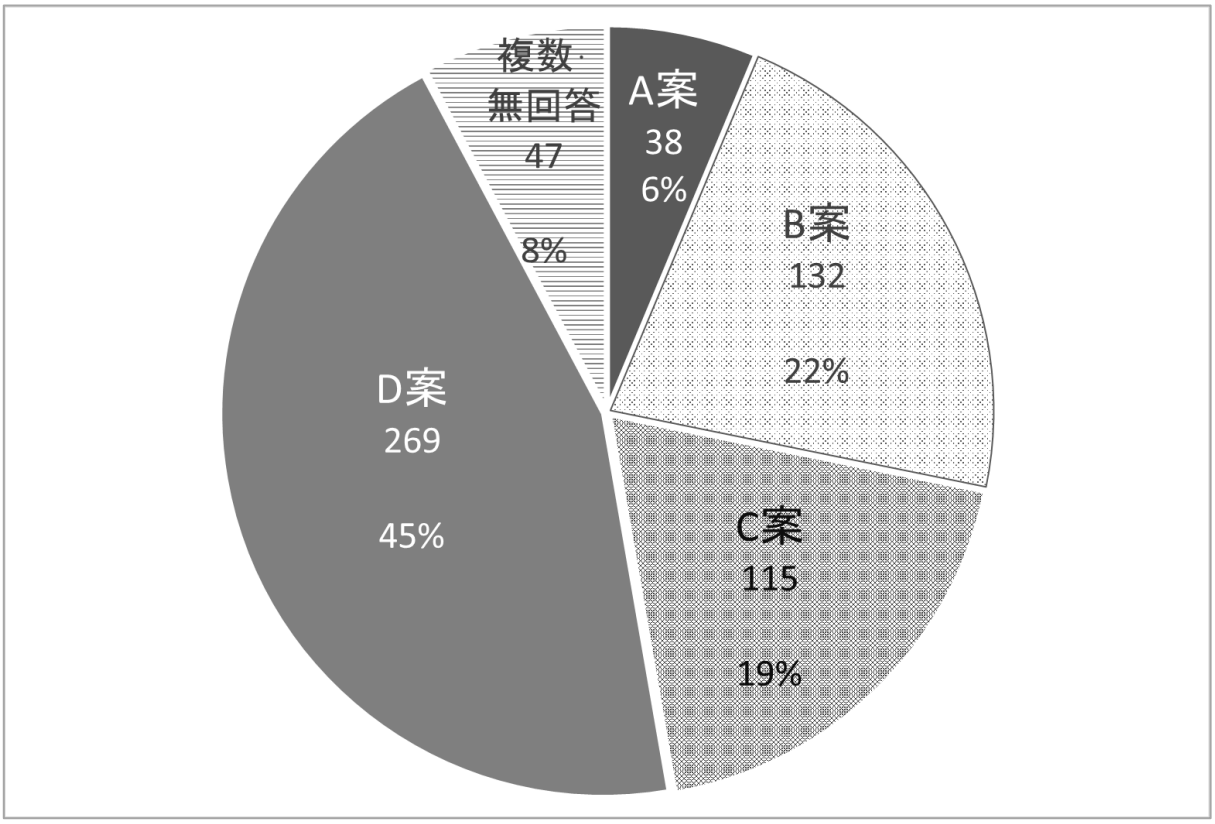
私たちはパルテノン多摩一館ではなくこれから計画される中央図書館、新市庁舎を統合して構想することこそが多摩センター地区の活性化のためには最重要であると考えています。巨額の改修費用の問題と同時に、このように変化する時代の中で問題をきちんと捉え、その中にパルテノン多摩の改修問題を位置づける構想力がこの際問われているのではありませんか。

パルテノン多摩の改修、中央図書館の新設計画が数年先送りされても新市庁舎建設計画が今後 10 年以内には具現化してきます。パルテノン多摩に一時的に発生する修繕費、この計画のために既に費やした経費などはこの３大施設の将来構想案に資することになるでしょう。いったん立ち止まって考え、話し合い、プロセスを大事にして再スタートすることを提案します。ご検討下さい。

（以上）

〔添付資料〕　アンケート結果・アンケートチラシ・新聞記事/文化施設 民の力で活性化

# アンケート結果

ウオッチング多摩の会は、2016 年 11 月、パルテノン多摩大規模改修について市民の意見調査を目的に市民を対象にアンケート調査を実施しました。アンケートは、意見を集約するためＡ案からＤ案の４案を提示して回答する形式です。
Ａ案（80 億円コース：維持発展案　市の案)、Ｂ案（40 億円コース：整理縮小案)、
Ｃ案（１６億円コース：撤去案)、Ｄ案（運営の完全民営化コース)。
アンケートは、チラシ（料金後納ハガキ）と Web サイト（サイト投票）で実施。

●アンケートチラシ配布　・４駅頭配布（聖蹟桜ヶ丘駅、永山駅、多摩センター駅、唐木田駅）
　・ポスティング（趣旨賛同者による任意配布）
●アンケート Web サイト　・http://xviews.jp/parthenon/
　・サイト案内　チラシ記載、メールでの拡散
●アンケート期間　・ハガキ　11 月 5 日～30 日
　・Web　11 月 5 日～2017 年 3 月 31 日（現在継続中）
●アンケート回収　・ハガキ　542／2,000　回収率　27.1%
　・Web　61　（2016 年 12 月 20 日現在）
●アンケート結果　・下記グラフ参照
　・民営化Ｄ案 45%に対して、市案Ａ案 6%
　・現状の市案は 94%受け入れられていない